

# 弱者の糧

太宰治

青空文庫



映画を好む人には、弱虫が多い。私にしても、心の弱っている時に、ふらと映画館に吸い込まれる。心の猛<sup>たけ</sup>つっている時には、映画など見向きもしない。時間が惜しい。

何をしてもし不安でならぬ時には、映画館へ飛び込むと、少しホツとする。真暗いので、どんなに助かるかわからない。誰も自分に注意しない。映画館の一隅に坐っている数刻だけは、全く世間と離れている。あんな、いいところは無い。

私は、たいていの映画に泣かされる。必ず泣く、といつても過言では無い。愚作だの、傑作だのと、そんな批判の余裕を持った事が無い。観衆と共に、げらげら笑い、観衆と共に泣くのである。

五年前、千葉県船橋の映画館で「新佐渡情話」という時代劇を見たが、ひどく泣いた。翌<sup>あく</sup>朝、目がさめて、その映画を思い出したら、嗚咽<sup>おえつ</sup>が出た。黒川弥太郎、酒井米子、花井蘭子などの芝居であった。翌朝、思い出して、また泣いたというのは、流石<sup>さすが</sup>に、この映画一つだけである。どうせ、批評家に言わせると、大愚作なのだろうが、私は前後不覚に泣いたのである。あれは、よかつた。なんとという監督の作品だか、一切わからないけれども、あの作品の監督には、今でもお礼を言いたい気持がある。

私は、映画を、ばかにしているのかも知れない。芸術だとは思っていない。おしるこだと思っている。けれども人は、芸術よりも、おしるこに感謝したい時がある。そんな時は、ずいぶん多い。

やはり五年前、船橋に住んでいた頃の事であるが、くるしまぎれに市川まで、何のあてもなく出かけて行って、それから懐中の本を売り、そのお金で映画を見た。「兄いもうと」というのを、やっていた。この時も、ひどく泣いた。おもんの泣きながらの抗議が、たまらなく悲しかった。私は大きな声を挙げて泣いた。たまらなくなつて便所へ逃げて行つた。あれも、よかつた。

私は外国映画は、余り好まない。会話が、少しもわからず、さりとて、あの画面の隅にちよいちよい出沒する文章を一々読みとる事も至難である。私には、文章をゆつくり調べて読む癖があるので、とても読み切れない。実に、疲れるのである。それに私は、近眼のくせに眼鏡をかけていないので、よほど前の席に坐らない

と、何も読めない。

私が映画館へ行く時は、よつぽど疲れている時である。心の弱っている時である。敗れてしまった時である。真つ暗いところに、こつそり坐つて、誰にも顔を見られない。少し、ホツとするのである。そんな時だから、どんな映画でも、骨身にしみる。

日本の映画は、そんな敗者の心を目標にして作られているのではないかとさえ思われる。野望を捨てよ。小さい、つましい家庭にこそ仕合せがありますよ。お金持ちには、お金持ちの暗い不幸があるので。あきらめなさい。と教えている。世の敗者たるもの、この優しい慰めに接して、泣かじと欲するも得ざる也。いい事だか、悪い事だか、私にもわからない。

観衆たるの資格。第一に無邪気でなければいけない。荒唐無稽を信じなければいけない。大河内伝次郎は、必ず試合に勝たなければいけない。或る教養深い婦人は、「大谷日出夫という役者は、たのもしくていいわ。あの人が出て来ると、なんだか安心です。決して負けることがないのです。芸術映画は、退屈です。」と言つて笑つた。美しい意見である。利巧ぶつたら、損をする。

映画と、小説とは、まるでちがうものだ。国技館の角力すもうを見物して、まじめくさり、「何事も、芸の極致は同じであります。」などという感慨をもらす馬鹿な作家。

何事も、生活感情は同じであります、というならば、少しは穏当である。

ことさらに、映画と小説を所謂「極致」に於いて同視せずともよい。また、ことさらに独自性をわめき散らし、排除し合うのも、どうかしている。医者と坊主だつて、路で逢えば互いに敬礼するではないか。

これからの映画は、必ずしも「敗者の糧」を目標にして作るよ  
うな事は無いかも知れぬ。けれども観衆の大半は、ひよつとした  
ら、やっぱり侘びしい人たちばかりなのではあるまいか。日劇を、  
ぐるりと取り巻いている入場者の長蛇の列を見ると、私は、ひど  
く重い気持になるのである。「映画でも見ようか。」この言葉に  
は、やはり無気力な、敗者の溜息ためいきがひそんでいるように、私に  
は思われてならない。

弱者への慰めのテーマが、まだ当分は、映画の底に、くすぶるのではあるまいか。



# 青空文庫情報

底本：「もの思う葦」新潮文庫、新潮社

1980（昭和55）年9月25日発行

1998（平成10）年10月15日39刷

入力：蔣龍

校正：今井忠夫

2004年6月16日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>)

で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

# 弱者の糧

太宰治

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>